

九州大学学生生活用 前原市「伊都塾」 (質問教室) 事業

自治体情報

人 □ 69,218 人

標準財政規模 12,066,734 千円

担当課 福岡県 前原市 教育委員会学校教育課

電話 092-323-1111 内線(1713,1715)

ホームページ <http://www.city.maebaru.fukuoka.jp/>

事業期間 平成 21 年度から平成 21 年度まで

参考とした施策

関係施策分類

施策の概要

1 取り組みに至る背景

九州大学伊都キャンパスが前原市近郊に移転してきたことに伴い、九州大学と連携した施策を行うことによって前原市への波及効果をねらった。

2 事業内容(目的・目標・方策)

前原市内小中学校の児童生徒の基礎・基本の学力向上を目指し、九州大学の知的資源を活用するために、九州大学の学生を小中学校に招き、放課後に質問教室形態の伊都塾を実施する。

九州大学の学生を学生サポーターとして募集。

市内小中学校(小学校9校、中学校3校)に2名ずつ学生を配置する。

毎週1回放課後に、学校がピックアップした児童生徒を教室に集め、学習指導を行う。

学生サポーターがその場に付き、学習中の児童生徒の質問に回答し、適宜アドバイスしていく。

また、学習を行う教室には教員が必ず付き、学生サポーターと一緒に児童生徒へ指導する。

年間を通じて約25回から30回実施する予定。

学生サポーターへは、学期末ごとに諸謝礼として報償を支払う。

学生サポーターへの諸謝礼は、伊都塾1回につき2,000円とする。

3 施策の開始前に想定した事業効果

他と比較して、理解や習熟により細やかな、繰り返しの指導が必要な児童生徒を学校がピックアップする。

その児童生徒を、放課後質問教室「伊都塾」で指導することにより基礎・基本の学力を向上させ、引いては学校全体・市全体の学力向上を図る。



4 導入にあたり工夫・苦勞した点、課題、対処法など

九州大学の学生確保、募集のため、学生支援担当部署へチラシ配布依頼を行った。

事業の性質上、九州大学の学生に限るとしたこと。

前原市内の小中学校に通える学生であること。

なお、学校には学生サポーターを最寄駅と学校間を送迎することを依頼した。

学生の希望曜日及び時間帯と、学校の希望曜日及び時間帯とのマッチングが課題となった。最終的な調整は、教育委員会が学校や学生と直接交渉し、時間や曜日の変更について了解を得ることもあった。

学校への事業目的の周知徹底と理解が、事業目的達成のための重要な要素となる。

なお、大学の講義スケジュールの関係上、後期課程から伊都塾に来ることができない学生サポーターの代わりとなるサポーターの再募集と確保が今後の課題である。



5 現在の成果・実績、今後の展開など

平成 21 年 4 月現在、九州大学の関係各課に働きかけて、学生サポーターを確保。

サポーターとして決定した学生を各学校に配置し、伊都塾を実施している。

学校は学生サポーターと打ち合わせて指導内容を決定し、伊都塾を実施していく。

予算関連データ 前原市

総額 ①～⑤の計		財源内訳(財源区分:①～⑤)				
		①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源
1,260 千円		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	1,260 千円
①～④の名称・所管等	名称					
	所管					
	金額					
	補助率					